

# 「世界が魔女の森になるまで 第30回萩原朔太郎賞受賞者 かわぐちはるみ 川口晴美展」を開催します

## 1 受賞作と見どころ

川口さんは、『やがて魔女の森になる』（思潮社）で第30回萩原朔太郎賞を受賞。受賞作は2017年「早稲田文学増刊 女性号」に初出の「世界が魔女の森になるまで」という長篇詩を軸に書かれた詩集です。この詩にはシスターフードやフェミニズムの問題がモチーフとしてあり、川口さんは受賞時には「この詩集は、私だったかもしれない誰かの声を詩ですくい取りたいと思いながら書きました。その小さないくつもの声に光があてられたような気持ちです。」とコメントされています。川口さんのことばや詩の感性を観覧者に体感してもらうと共に、業績や創作活動についてご紹介します。

## 2 作家プロフィール

1962年、福井県小浜市生。早稲田大学第一文学部文芸専攻卒。詩人。國學院大学、文教大学非常勤講師。2010年に詩集『半島の地図』で第10回山本健吉賞、2016年、詩集『Tiger is here.』で第46回高見順賞を受賞。その他、『現代詩文庫196 川口晴美詩集』（2012年）や近現代の男性詩人による詩をBLという観点で読み解く画期的なアンソロジー『詩の向うで、僕らはそっと手をつなぐ。』（2014年）など。

## 3 展示内容

川口さんの現在までの生き立ちや思いを振り返りつつ、著作（詩集、同人誌など）や詩とアートのコラボレーション作品などを展示し、川口さんならではの新しい詩作の可能性について掘り下げます。 展示作品数 約70点

## 4 公開日時・会場

(1) 日 時 3月4日（土）～5月21日（日） 9時～17時（入場は16時30分）

(2) 会 場 前橋文学館 2階展示室 （千代田町三丁目12-10）

(3) 観覧料 一般500円（高校生以下、障害者手帳持参の方と介護者1名は無料）

## 5 記念イベント

(1) 3月19日（日） 歴代受賞者座談会 同時開催企画展「“詩”をいきる人たちへ—萩原朔太郎賞歴代受賞作品展」との連動企画

(2) 4月23日（日） 作品朗読会 ～「川口晴美の世界」を読む～

(3) 5月 6日（土） ワークショップ～「言葉を紡ぐ」エンドレスカードを作ろう～

担当：文化国際課文学館

電話：027-235-8011